

移動実態に関する調査結果

〔 生活者、旅行者 〕

令和 8 年 5 月
内閣府規制改革推進室

調査概要

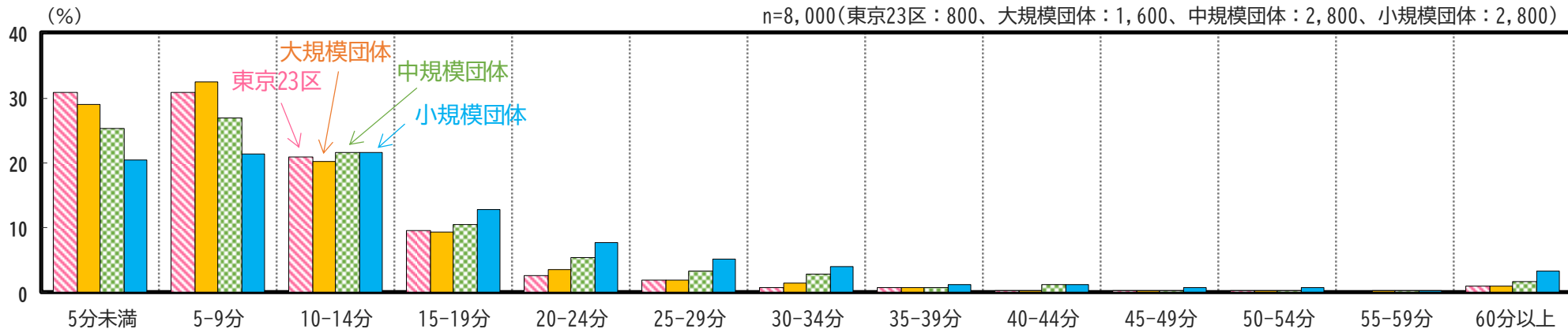
生活者、旅行者の移動の実態を把握するため、内閣府において調査を実施。

	対象地域	有効回答数	調査期間	調査方法
1 生活者	①大規模団体（人口100万人以上）11団体 ②中規模団体（人口20万人以上100万人未満）100団体 ③小規模団体（5万人以上20万人未満）383団体 ④東京23区	8,000件 (①1,600件、②2,800件、 ③2,800件、④800件)	令和8年2月6日（金） ～2月20日（金）	インターネットによるモニターアンケート調査を民間調査会社に委託
2 旅行者	47都道府県 (宿泊旅行統計調査（令和6年1月～12月）の都道府県別宿泊者数に基づく分布に応じた形で調査。)	8,000件	令和8年2月6日（金） ～2月17日（火）	

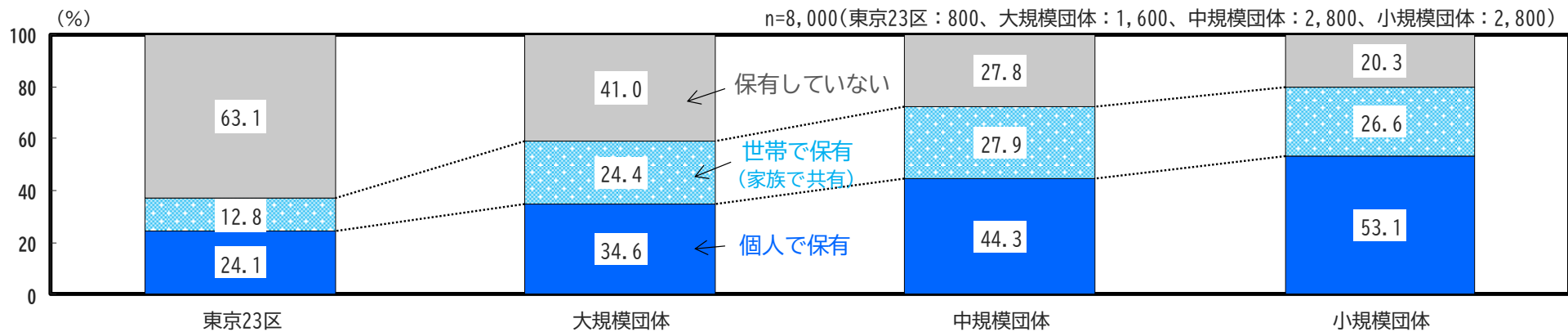
1 生活者アンケート結果

- 前回同様、最寄り駅までの徒歩での所要時間は、人口規模の大きい団体では10分未満で割合が高く、小さい団体では15分以上の割合が高い傾向（1図）。
- 人口規模が小さくなるほど、自家用車保有割合が高い。小規模団体では個人保有が5割を超過（2図）。

1図 最寄り駅までの徒歩での所要時間

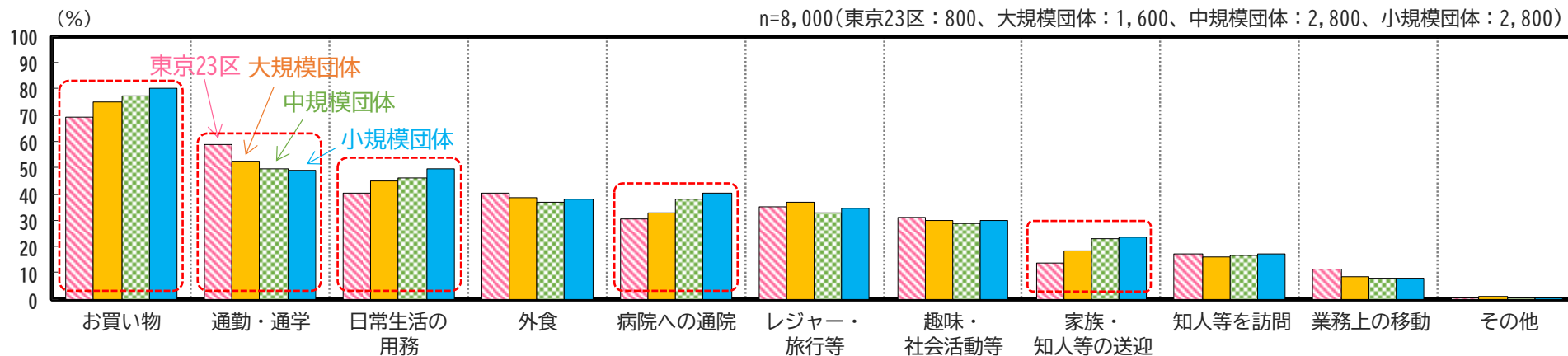


2図 自家用車の保有状況

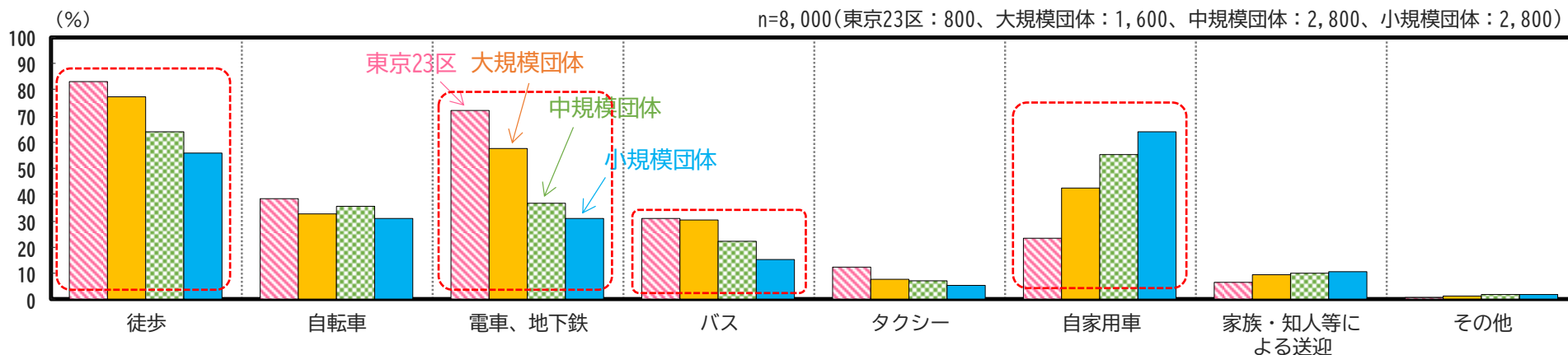


- 日常生活での移動の主な目的は、いずれの人口規模の団体でも「お買い物」「通勤・通学」「日常生活の用務」で相対的に高い割合。「お買い物」「日常生活の用務(役所・銀行など)」「通院」「家族・知人等の送迎」については、人口規模が小さくなるほど割合が高まる傾向(1図)。
- 前回同様、移動手段をみると、人口規模が小さい団体ほど、徒歩や公共交通の割合が低く、自家用車の割合が高い傾向(2図)。

1図 日常生活での移動の主目的(複数回答)

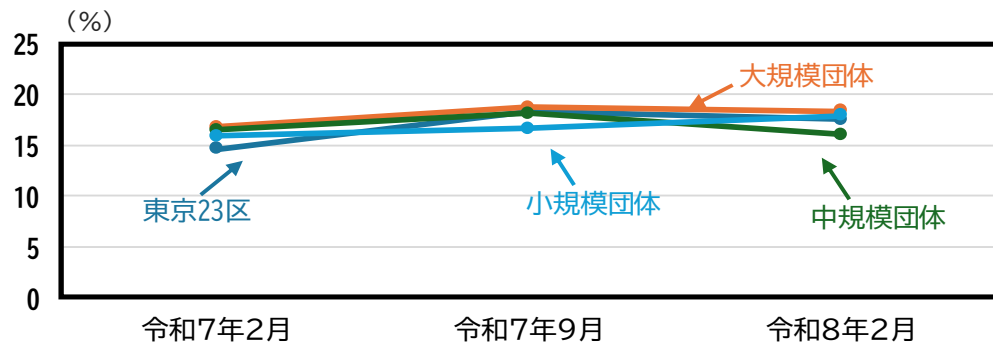


2図 日常生活における移動手段(複数回答)



- 移動の足に困った経験がある者の割合は16～18%程度（6人に1人）で、人口規模による差はさほど見られない。時系列でみると、東京23区・大規模・中規模団体では、前回よりも割合が減少している（1図）。
- 年齢別にみると、40歳未満の比較的若い年齢層で移動困難経験の割合が高く、また、80歳以上で割合が上昇（2図）。

1図 移動の足に困った経験がある者の割合

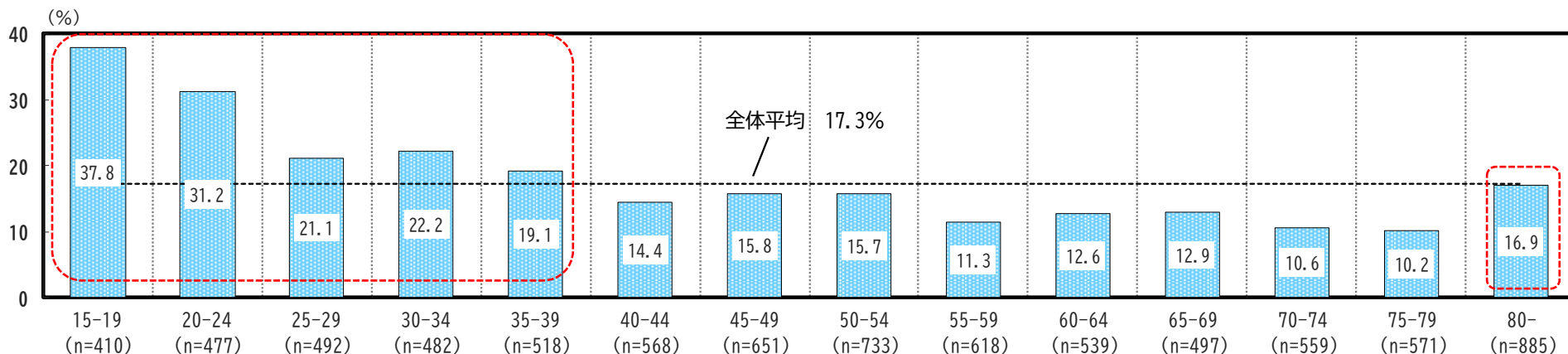


総平均は17.3%
(前は17.7%、前々回は16.2%)

	東京23区	大規模団体	中規模団体	小規模団体
令和7年2月	14.6	16.8	16.5	15.9
令和7年9月	18.3	18.7	18.1	16.6
令和8年2月	17.5	18.3	16.0	17.9

【今回・前回・前々回】 n=8,000 (東京23区: 800、大規模団体: 1,600、中規模団体: 2,800、小規模団体: 2,800)

2図 移動の足に困った経験の年齢別割合

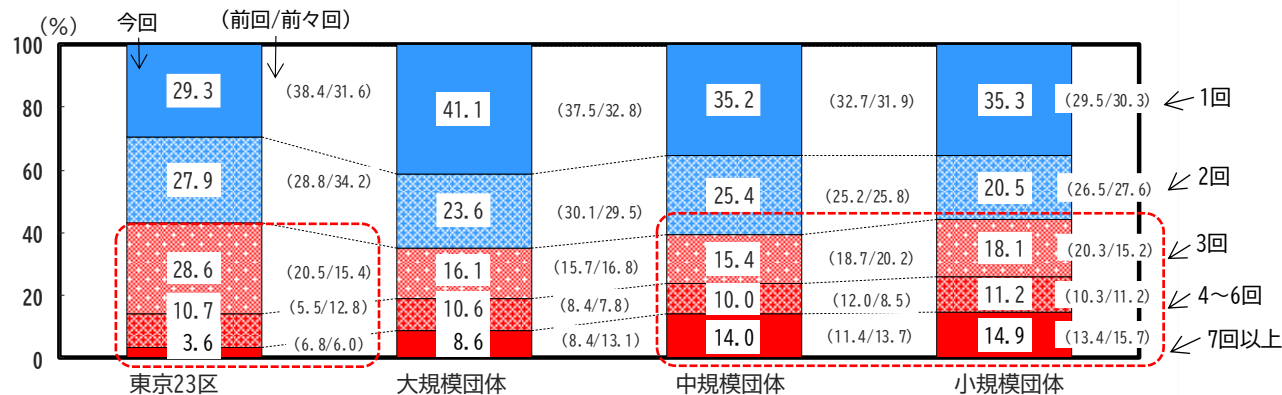


注1) 前回調査は内閣府「移動実態に関する調査結果」（令和7年9月調査開始、令和8年1月公表）前々回調査は内閣府「移動実態に関する調査結果」（令和7年2月調査開始、令和7年3月公表）（以下の図表も同様）。

注2) 移動の足に困った経験とは、タクシーがつかまらなかった、バス・鉄道の減便で移動しづらくて困った、15分以上の待ち時間が発生した、遠回りのルートにせざるを得なかった、移動をあきらめた、等のこと。

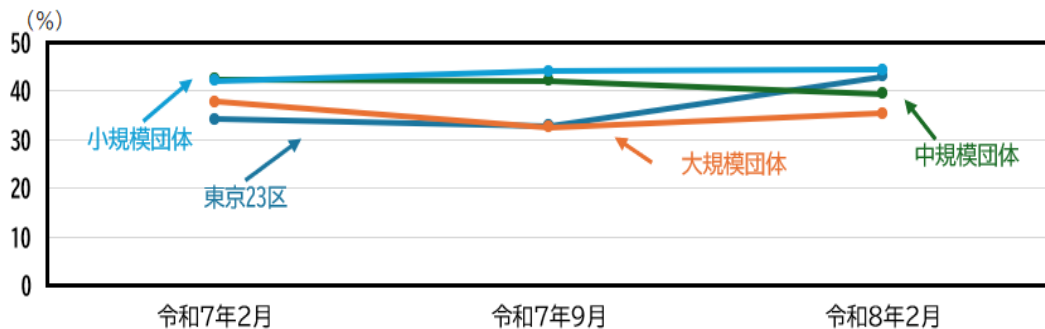
- 移動の足に困った経験を頻度別にみると、東京23区を除き、人口規模の小さな団体ほど頻度が高まる傾向があり、移動の困難が相対的に深刻である様子が窺える（3図）。
- 困った経験が3回以上と回答した割合を時系列でみると、東京23区では、前回よりも10%以上割合が上昇（4図）。

3図 移動の足に困った経験の頻度別割合



【今回（前回/前々回）】n=1,383（1,417/1,292）（東京23区：140（146/117）、大規模団体：292（299/268）、中規模団体：449（508/461）、小規模団体：502（464/446））

4図 移動の足に困った経験の頻度別割合（3回以上）

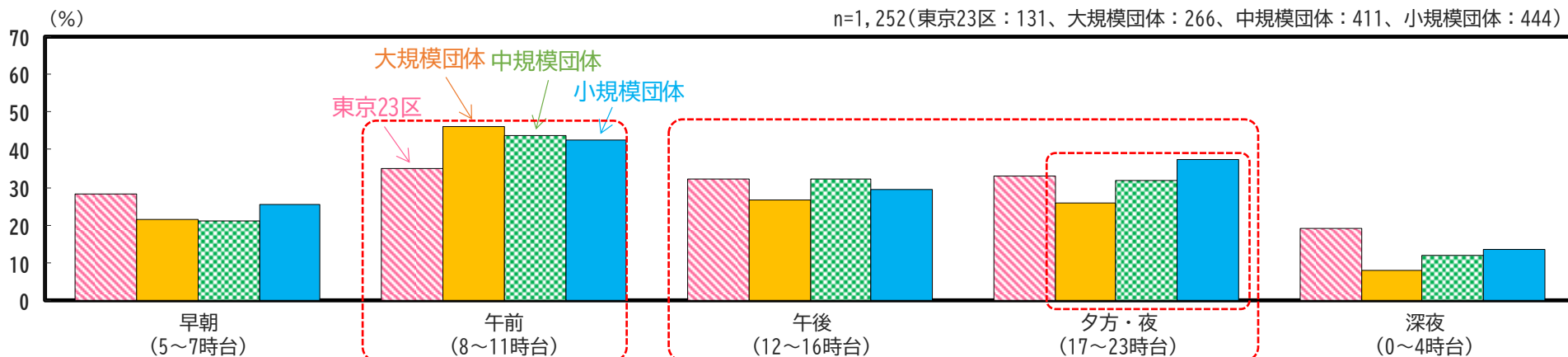


	東京23区	大規模団体	中規模団体	小規模団体
令和7年2月	34.2	37.7	42.4	42.1
令和7年9月	32.8	32.5	42.1	44.0
令和8年2月	42.9	35.3	39.4	44.2

※n数は3図と同様

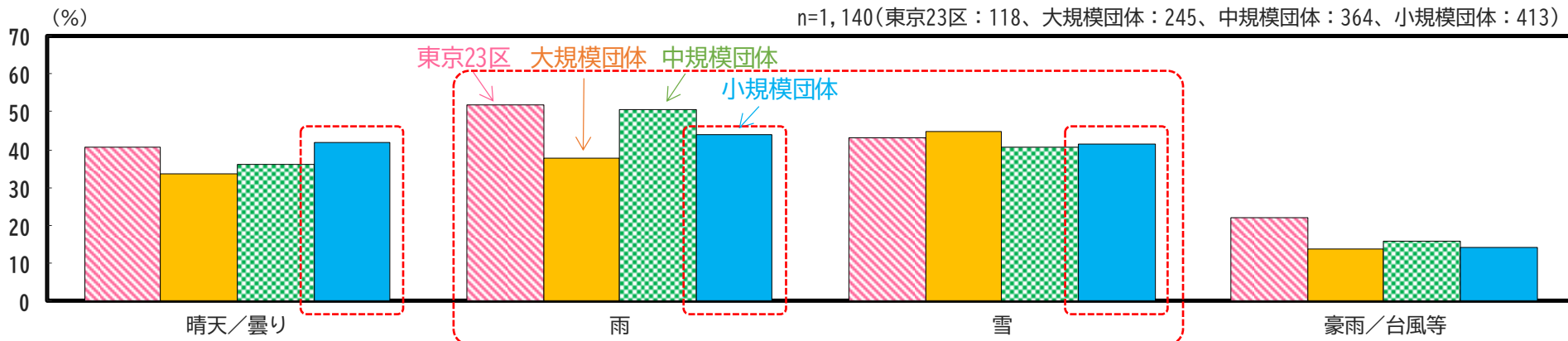
- 移動の足に困った際の時間帯については、全体的に午前から夕方・夜までの割合が高い。人口規模別に比較すると、規模が小さくなるほど、夕方・夜の割合が高くなる傾向（1図）。
- 天候については、全体的に雨天時や雪の割合が高い。また、小規模団体では晴天／曇りでも雨天や雪と同程度の割合となっている（2図）。

1図 移動の足に困った際の時間帯（複数回答）



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

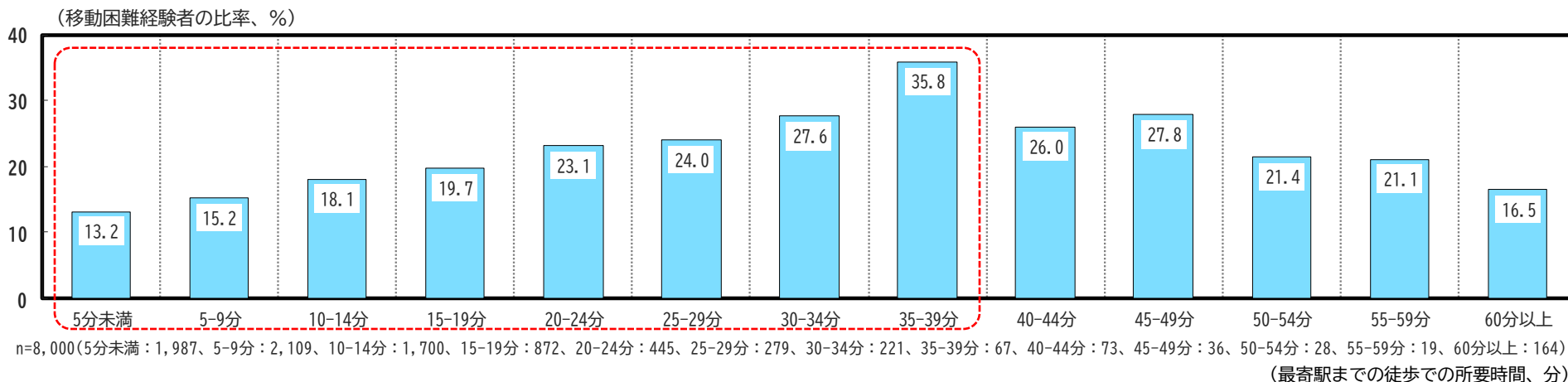
2図 移動の足に困った際の天候（複数回答）



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合（覚えていないと回答した者を除く）。

- 移動困難経験者の割合は、徒歩35分～39分程度までは、最寄り駅までの距離が遠くなるほど高まる傾向（1図）。
- 移動の足に困った経験がある者について、人口規模別にみると、規模が小さい団体ほど、困った経験が1～2回の層では20分以上、3回以上の層では10分以上で割合が高い傾向（2図）。

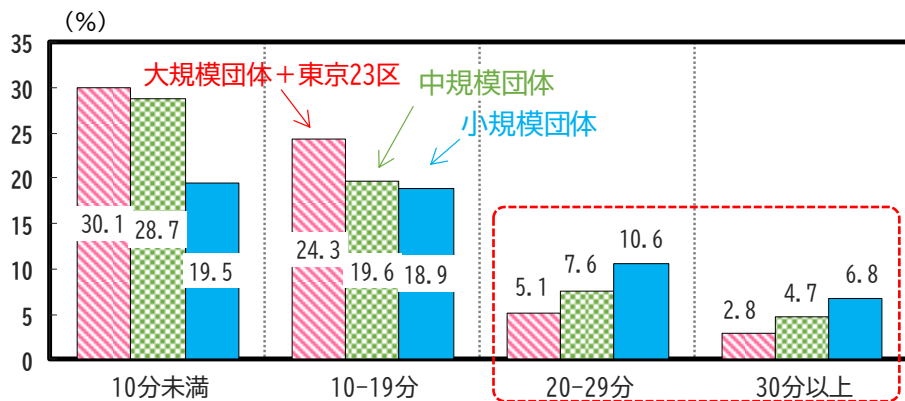
1図 最寄り駅までの距離別にみた移動困難者の割合



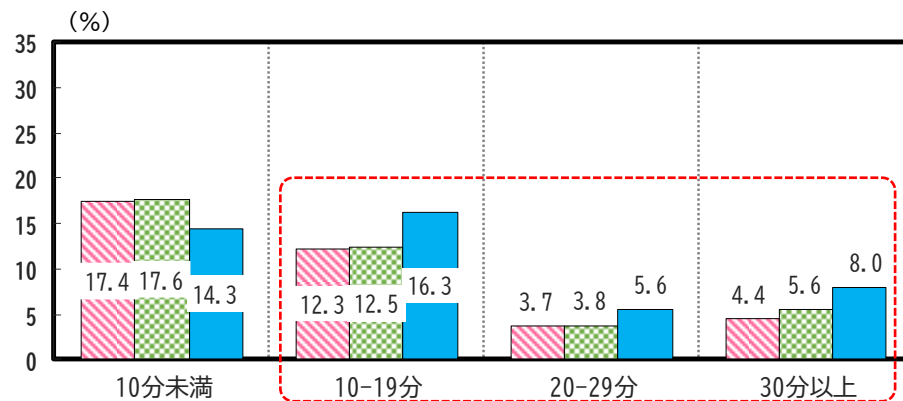
2図 移動の足に困った経験の頻度別にみた最寄り駅までの徒歩での所要時間

n=1,383 (大規模団体+東京23区: 432、中規模団体: 449、小規模団体: 502)

1～2回 (移動困難者に占める割合)



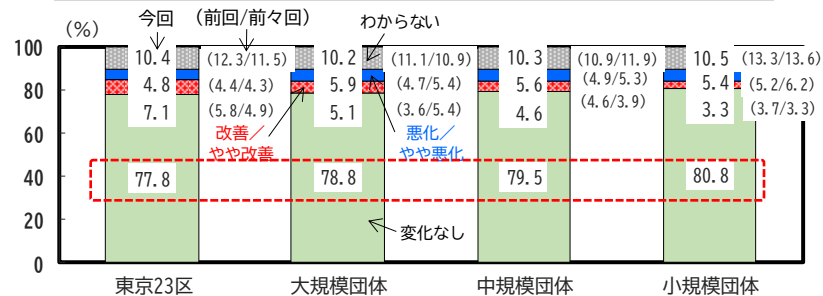
3回以上 (移動困難者に占める割合)



- ▶ 前回同様、いずれの団体においても、8割程度の者が「変化なし」と回答。(1図①)。自家用車活用事業(3号)の実施有無別については、中規模・小規模団体のいずれも実施の有無による差はほとんどみられない(1図③)。
- ▶ 移動の足の困難による日常生活への影響をみると、「買い物に行けない」「荷物の多い移動ができない」「日常生活の用務を足すことができない」などの割合が高く、移動困難が経済社会活動に影響を及ぼしている様子が窺える(2図)。

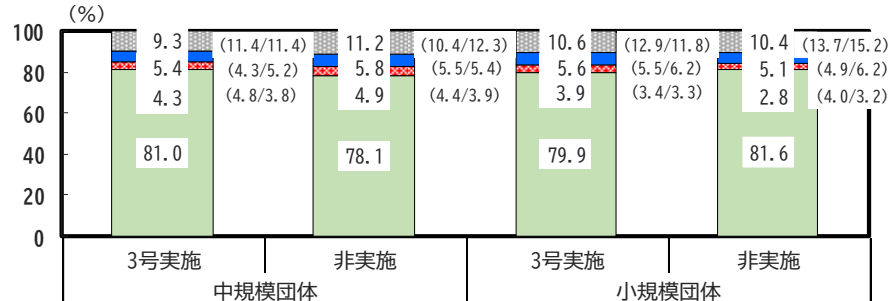
1図 3か月前と比べた移動の足不足の状況変化

①東京23区/大規模団体/中規模団体/小規模団体別



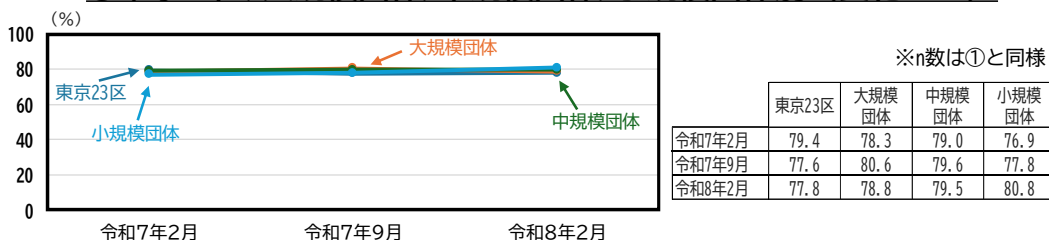
【今回・前回・前々回】n=8,000 (東京23区:800、大規模団体:1,600、中規模団体:2,800、小規模団体:2,800)

③中規模団体・小規模団体の3号実施注/未実施別

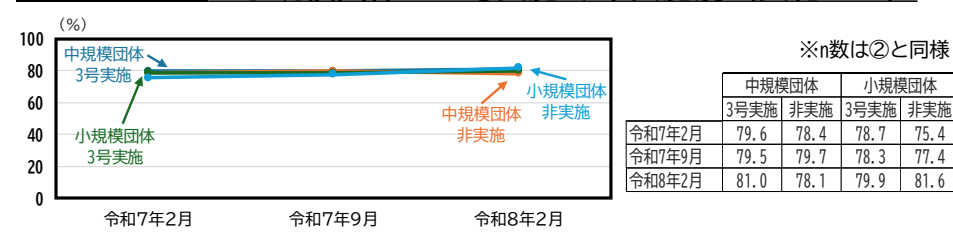


【今回(前回/前々回)】中規模団体のうち3号実施:1,381(1,383/1,395)、未実施:1,419(1,417/1,405)、小規模団体のうち3号実施:1,320(1,280/1,290)、未実施:1,480(1,520/1,510)

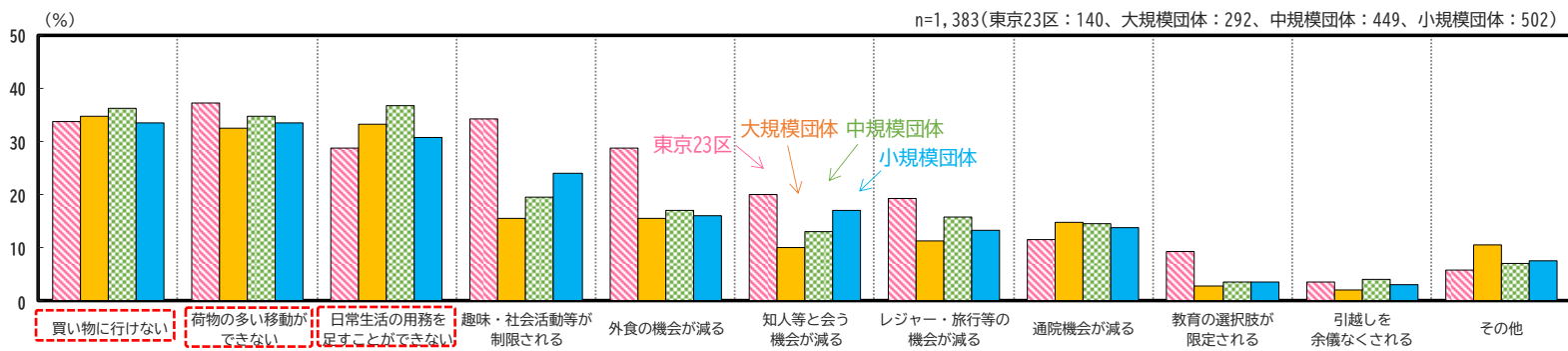
②東京23区/大規模団体/中規模団体/小規模団体別(変化なし)



④中規模団体・小規模団体の3号実施注/未実施別(変化なし)



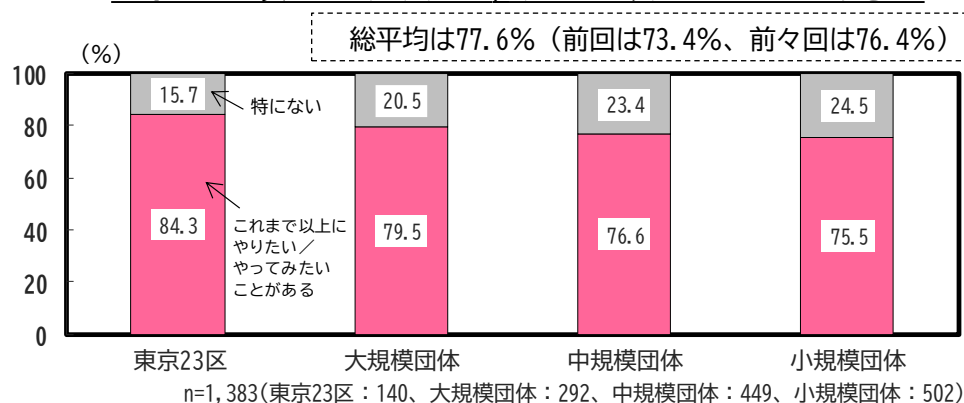
2図 移動の足の困難による日常生活への影響(複数回答)



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

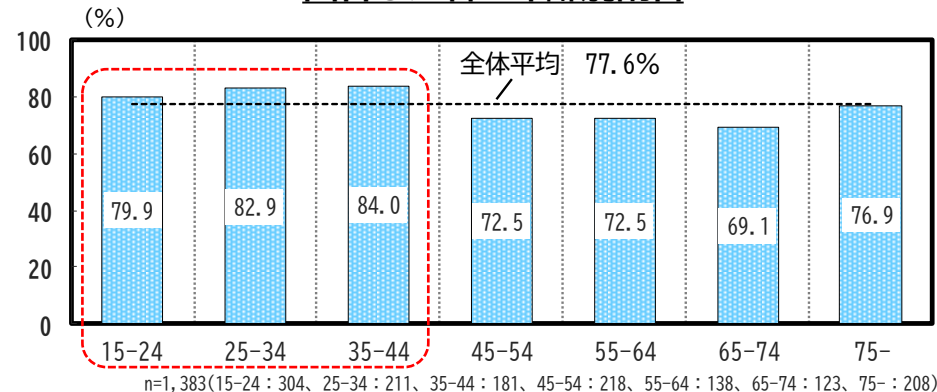
- 移動の不足の状況が改善された場合、これまで以上にやりたい／やってみたいことがあると回答した者は7割半ばを超える（1図）。年齢別にみると、45歳未満で相対的に意欲が高い（2図）。
- やりたい／やってみたい内容をみると、幅広い活動で高い割合が示されており、不足の改善が経済社会活動の活性化に寄与する可能性がある。年齢別にみると、45歳未満では「趣味・社会活動」「レジャー」など、余暇活動への意欲が高い。一方、75歳以上では「健康維持・管理」「買い物」「知人等と会う」の割合が相対的に高い（3図）。

1図 移動の不足の状況が改善した場合、これまで以上にやりたい／やってみたいことがあるか



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

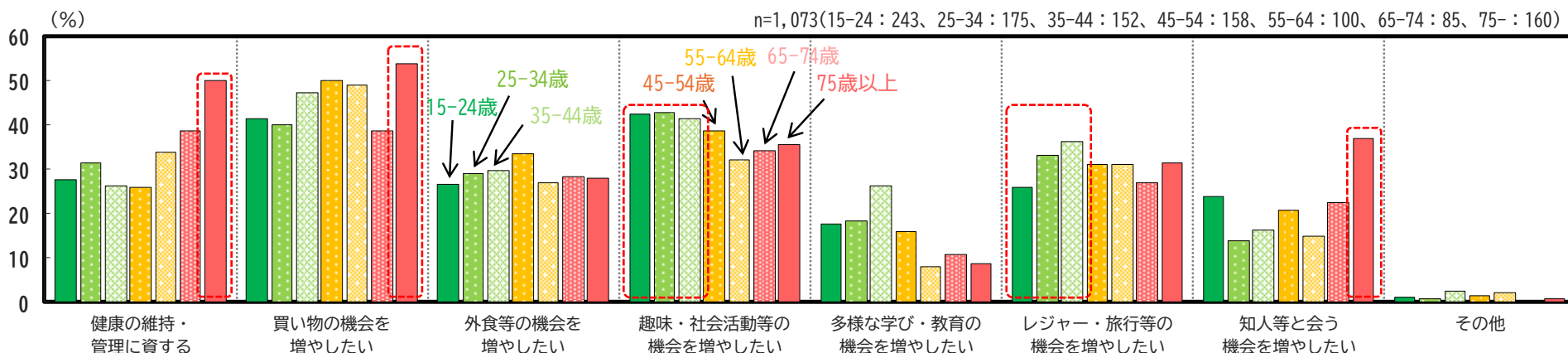
2図 これまで以上にやりたい／やってみたいことがあると回答した者の年齢別割合



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

(年齢、歳)

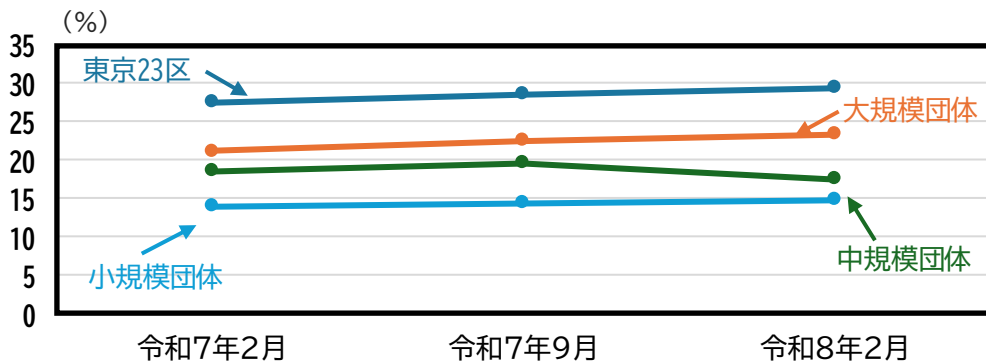
3図 年齢別にみたこれまで以上にやりたい・やってみたいことの内容 (複数回答)



注) 移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

- タクシー利用者の割合は、人口規模が大きい団体ほど高い。時系列でも、東京23区・大規模・小規模団体は令和7年3月から増加傾向にある（1図）。
- 利用者の頻度別割合をみると、月5回以上利用する者の割合が東京23区で高い（2図）。

1図 月に1~2回以上はタクシーを利用する者の割合

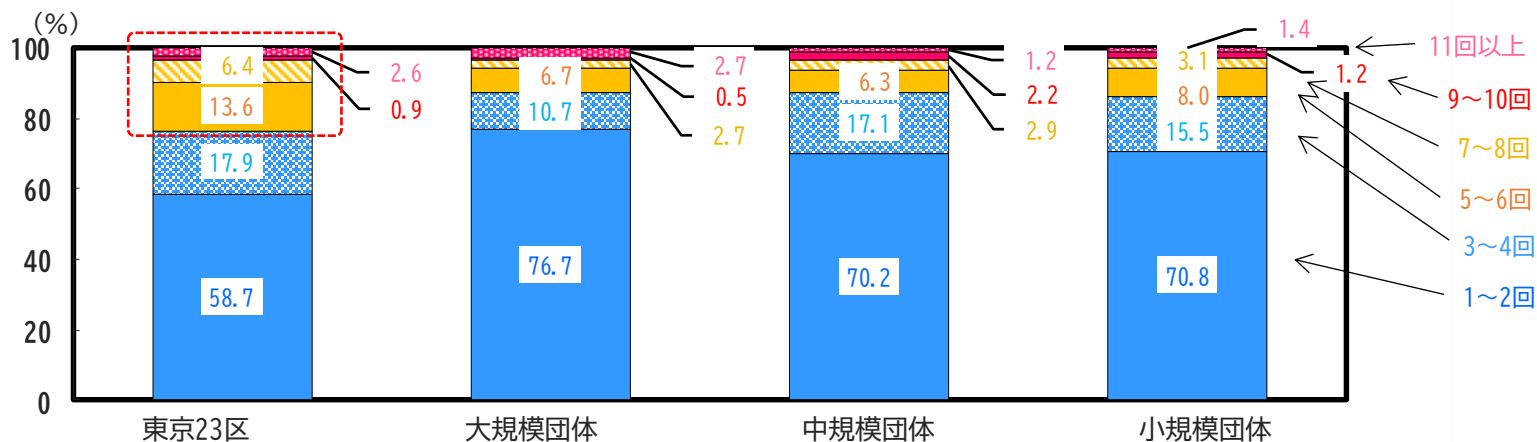


総平均は18.9%
(前回は19.3%、前々回は18.4%)

	東京23区	大規模団体	中規模団体	小規模団体
令和7年2月	27.5	21.2	18.6	14.0
令和7年9月	28.6	22.5	19.6	14.4
令和8年2月	29.4	23.4	17.5	14.8

【今回・前回・前々回】 n=8,000 (東京23区：800、大規模団体：1,600、中規模団体：2,800、小規模団体：2,800)

2図 タクシー利用者の利用頻度別の割合

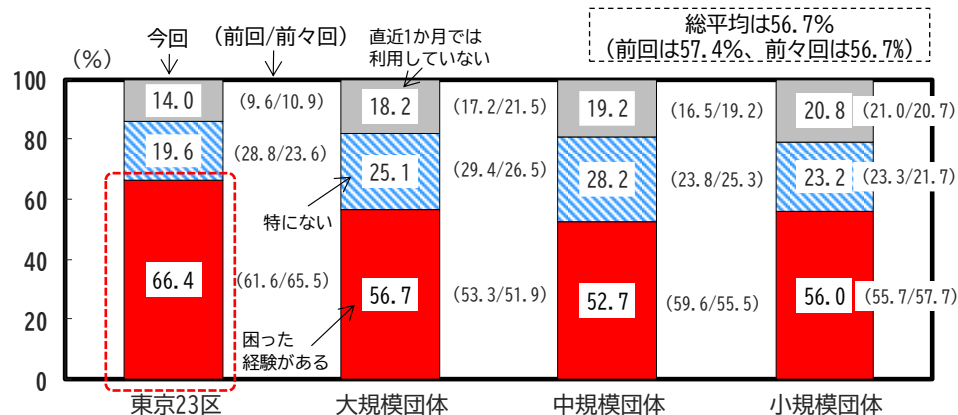


n=1,513 (東京23区：235、大規模団体：374、中規模団体：490、小規模団体：414)

注) 月に1~2回以上タクシーを利用する者に対する割合。

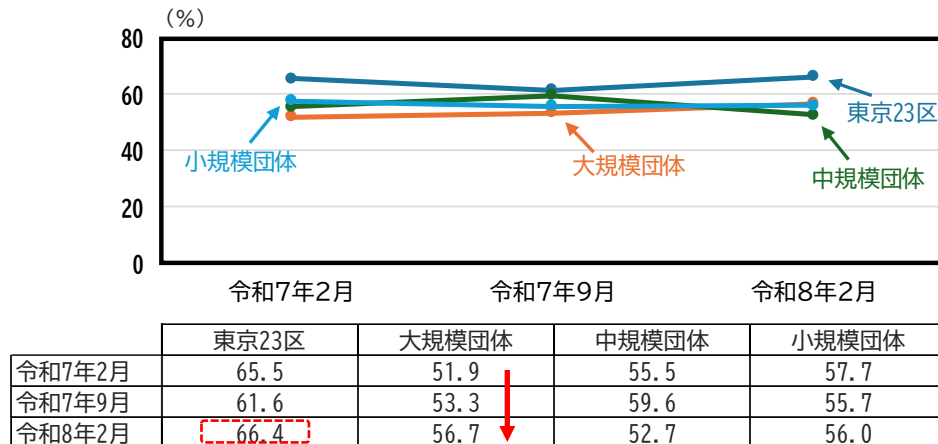
- 全ての人口規模において、タクシーを利用する者の5割以上は、利用しようとした際に困った経験があると回答。東京23区で最も高く、次いで大規模団体が高い割合（3図）。困った経験がある人の割合を時系列でみると、東京23区は令和7年3月と同水準、大規模団体は割合が増加傾向にある（4図）。
- 困った経験がある者の割合を年齢別にみると、55歳未満の年齢層で相対的に高い割合（5図）。

3図 タクシー利用時の困った経験の有無

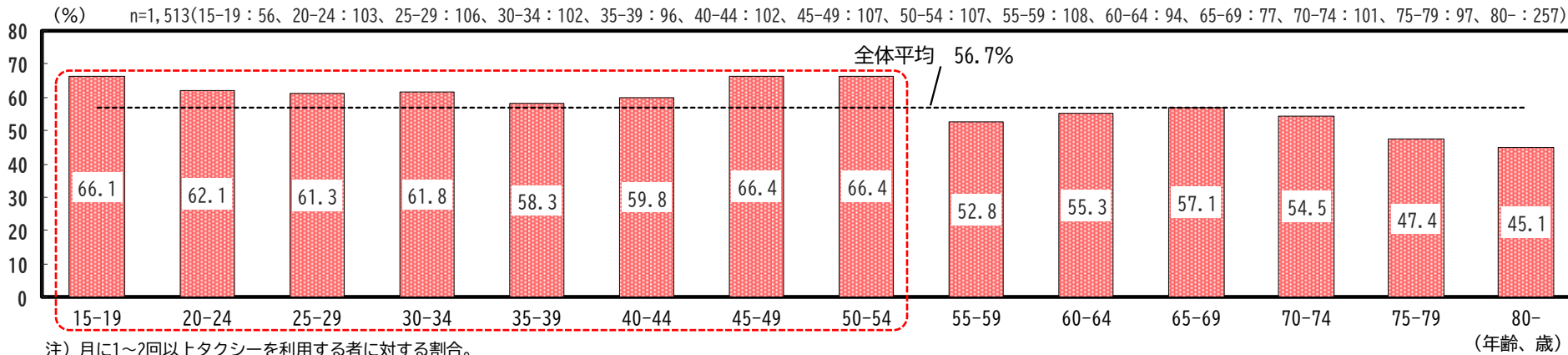


【今回(前回/前々回)】n=1,513 (1,543/1,472) (東京23区: 235 (229/220)、大規模団体: 374 (360/339)、中規模団体: 490 (550/521)、小規模団体: 414 (404/392))
 注) 月に1~2回以上タクシーを利用する者に対する割合。

4図 タクシー利用時の困った経験の有無 (困った経験がある)

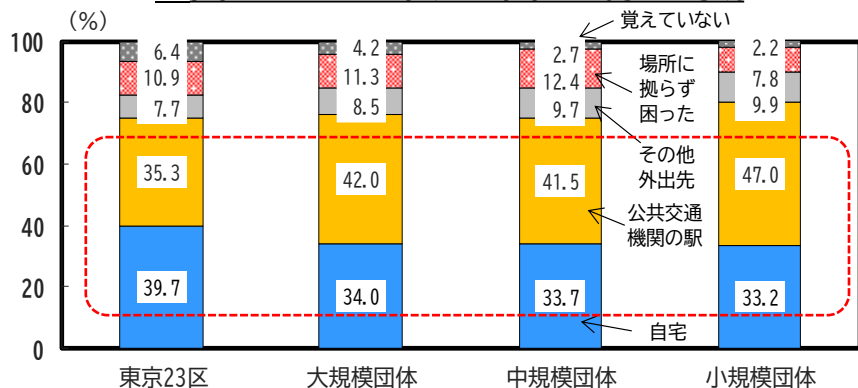


5図 年齢別にみたタクシー利用時に困った経験がある者の割合



- ▶ 前回同様、タクシー利用で困った際の場所は、いずれの人口規模でも「自宅」「公共交通機関の駅」の割合が高い傾向（1図）。困った際の場面は、いずれの人口規模でも「日常生活の用務」が最も高いが、小規模団体では「飲食店利用時」も相対的に高い（2図）。
- ▶ 困った際の時間帯は、いずれの人口規模でも「夕方・夜」「午後」が高い（3図）。困った際の天候は、東京23区・大規模・中規模団体では「雨／雪」が高く、特に大規模団体では4割強。また、小規模団体では「晴天／曇り」の割合も高い傾向（4図）。

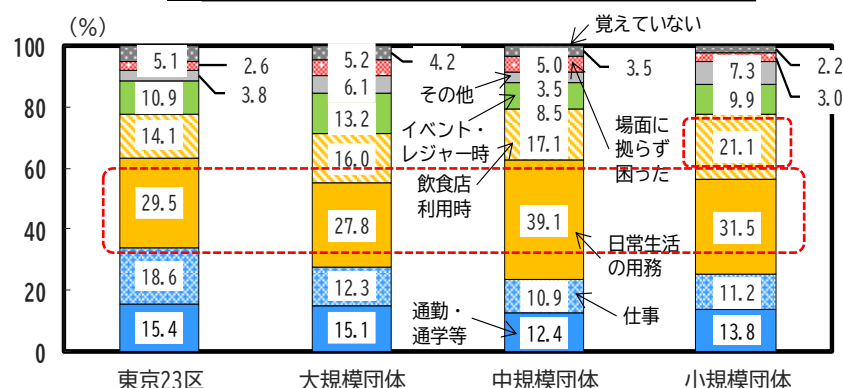
1図 タクシー利用で困った際の場所



n=858(東京23区:156、大規模団体:212、中規模団体:258、小規模団体:232)

注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

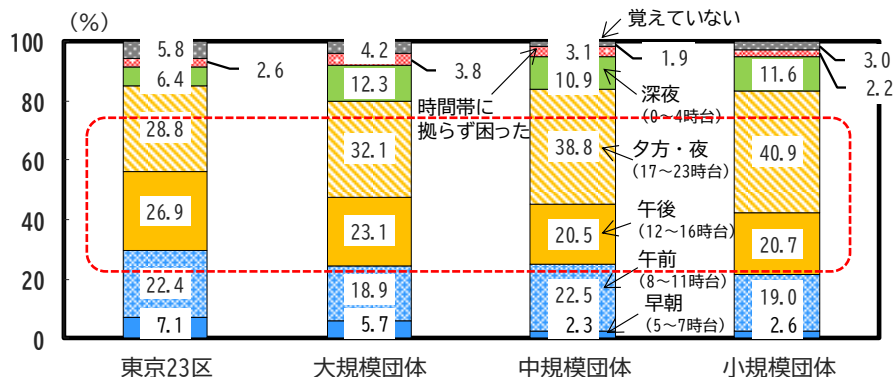
2図 タクシー利用で困った際の場面



n=858(東京23区:156、大規模団体:212、中規模団体:258、小規模団体:232)

注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

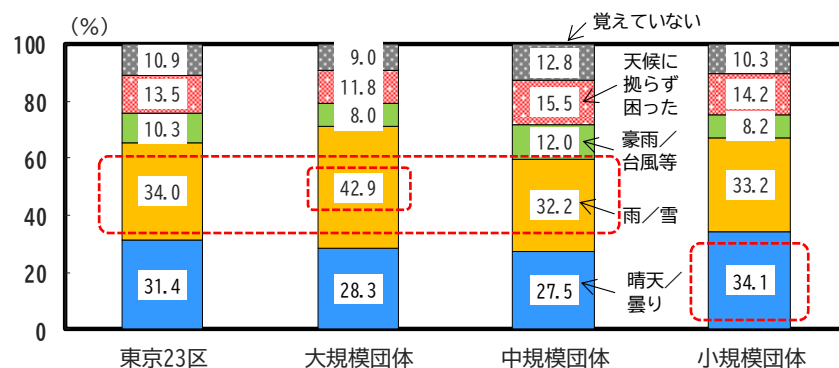
3図 タクシー利用で困った際の時間帯



n=858(東京23区:156、大規模団体:212、中規模団体:258、小規模団体:232)

注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

4図 タクシー利用で困った際の天候

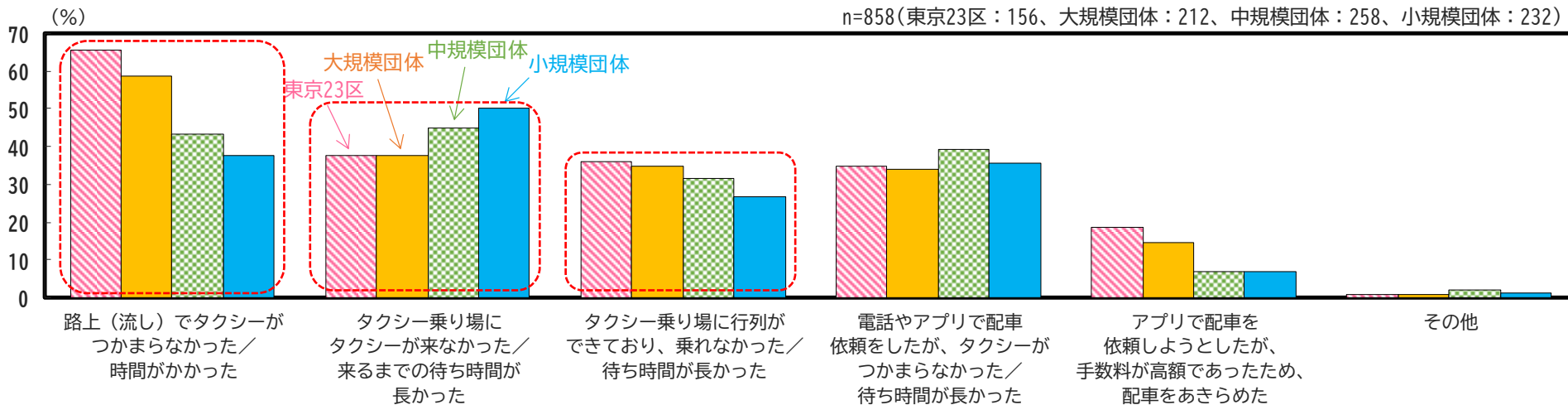


n=858(東京23区:156、大規模団体:212、中規模団体:258、小規模団体:232)

注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

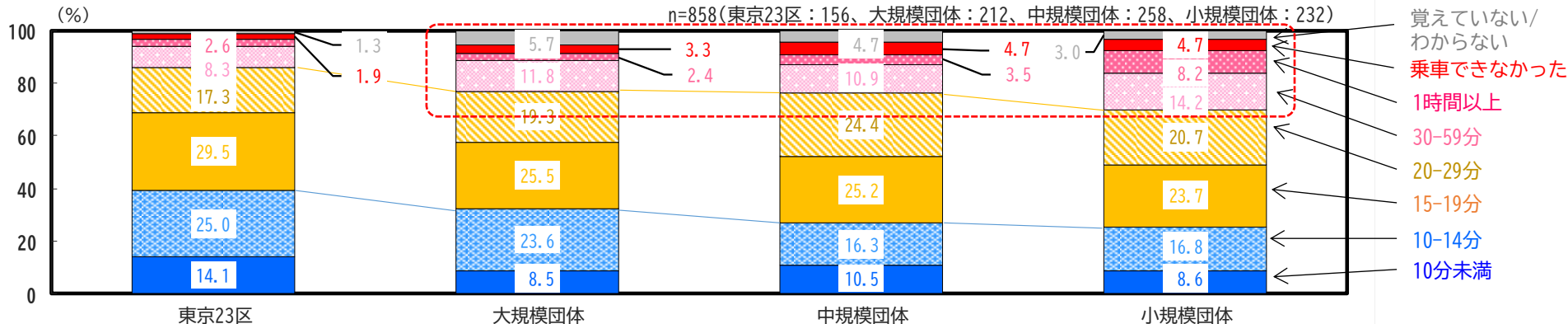
- タクシー利用時の困った経験の内容をみると、人口規模の小さい団体ほど、乗り場にタクシーが来るまでの待ち時間が長く、人口規模が大きい団体ほど、「路上（流し）」や乗り場での待ち時間が長い傾向（1図）。
- タクシー利用時に困難を経験した者のうち乗車までにかかった時間をみると、人口規模が小さい団体ほど乗車までに時間を要する傾向。特に小規模団体では、30分以上を要した又は乗車できなかった割合が2割半ばを超えている（2図）。

1図 タクシー利用時に困った経験の内容（複数回答）



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

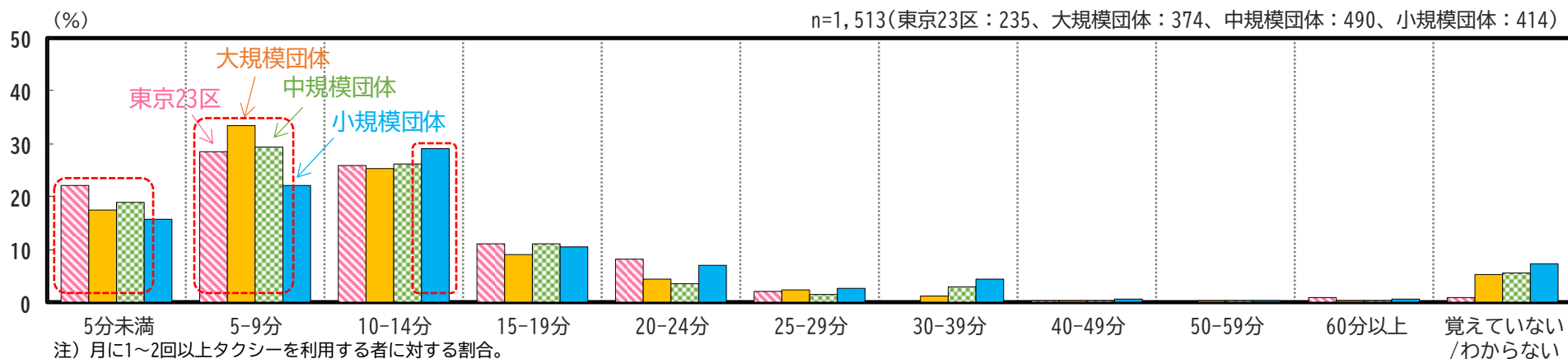
2図 タクシー利用で困った際、乗車までに要した時間



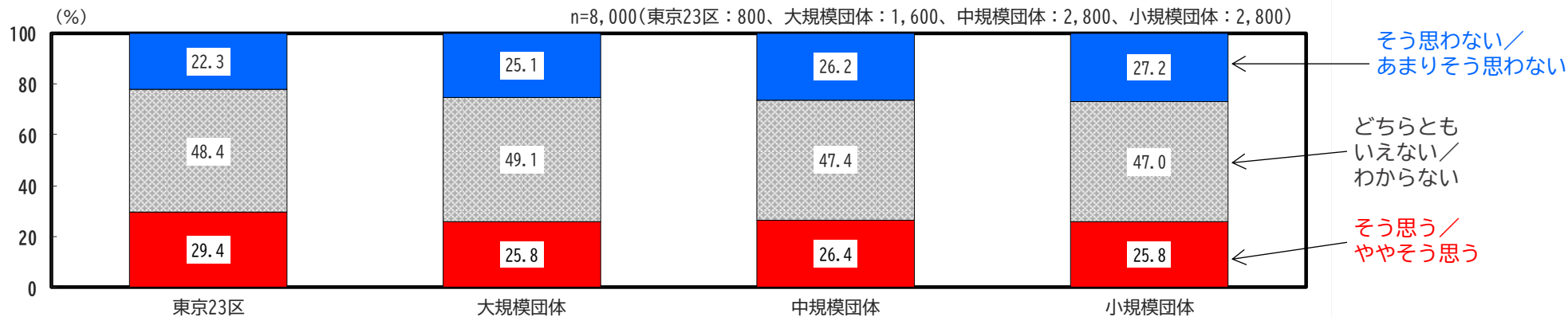
注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合(特にないと回答した者を除く)。

- タクシーの乗車までにかかる時間をみると、東京23区・大規模・中規模団体では10分未満の割合が高く、小規模団体では10～14分の割合が高い（1図）。
- 前回同様、スマホで簡単に手配できる新たな移動サービスが提供された場合の移動のしやすさへの改善期待は、いずれの人口規模でも5割程度が「どちらともいえない／わからない」と回答。「そう／やや思う」と「そう／あまり思わない」はそれぞれ2割半ば程度で拮抗。人口規模による差はほとんどみられない（2図）。

1図 タクシーの乗車までにかかる時間



2図 スマホで簡単に手配できる新たな移動サービスの提供で、移動しやすさが改善されると思うか



※下記コメントは、回答いただいた自由回答を要約したものを記載。事実関係は未確認。



大規模団体
70～74歳

バスの減便の為にバス停で待つ時間が長くなった。



大規模団体
45～49歳

電車遅延で、1時間に2本しかないバスに乗り遅れて往復で1時間以上、時間を無駄にした。



中規模団体
80歳以上

自家用車がなくなって以来、食品のまとめ買いができなくなった。



東京23区
50～54歳

タクシーがなかなか捕まらず約束の時間に間に合わなかった。



中規模団体
15～19歳

バスが1時間に1本なため、もし乗り遅れてしまうと1時間待たなくてはならず、予約等で時間の決められているもの等は非常に困った。



東京23区
50～54歳

電車が止まった時に、タクシーがつかまらなかった。



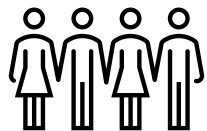
小規模団体
50～54歳

タクシーの営業時間が短縮され、夜動くタクシーが極端に少なくなった。



小規模団体
65～69歳

バスの便が減ってきて、1つのことを1日がかかりできるようになって時間がかかって仕方がなかった。



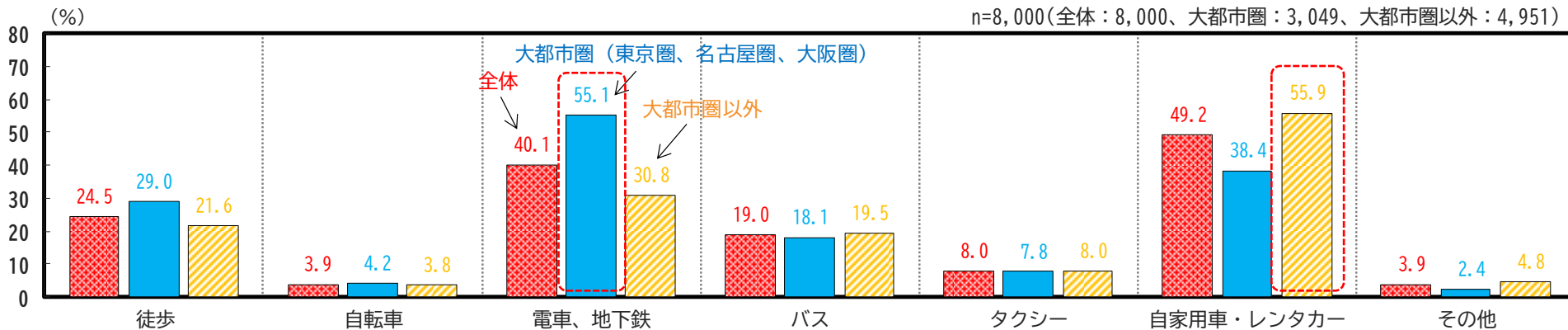
複数の方の回答

- ・バスの本数が少ない（1時間に1本しかない、利用したい時間にバスがない）
- ・バスの減便や路線減少
- ・バスの遅延
- ・タクシーがつかまらない
- ・深夜早朝の移動が困難（公共交通無し・バスやタクシーがない）
- ・積雪や天候不良による遅延や運休
- ・自転車の不具合や自家用車がなく移動できない など

2 旅行者アンケート結果

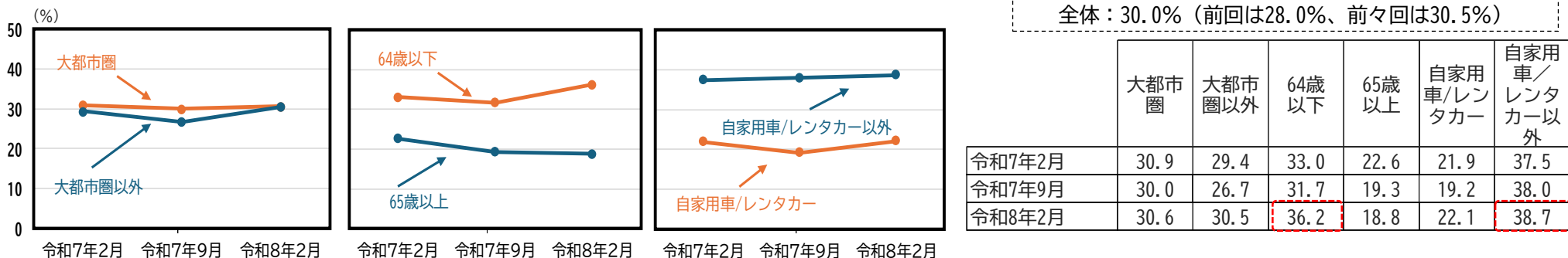
- 前回同様、旅行時の移動手段は、大都市圏（東京圏、名古屋圏、大阪圏）では電車・地下鉄など公共交通の割合が相対的に高い。一方、大都市圏以外では自家用車・レンタカーの割合が高い（1図）。
- 前回同様、旅行先において移動に困った場面がある者は、全体の3割（3～4人に1人）。人口規模別でみると大きな差はないが、年齢別では64歳以下、移動手段別では自家用車・レンタカー以外の者の割合が相対的に高い。（2図）。

1図 旅行先での移動手段（複数回答）



注) 東京圏：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県。名古屋圏：愛知県、岐阜県、三重県。大阪圏：大阪府、兵庫県、京都府、奈良県。

2図 旅行先において移動に困った場面がある者の割合

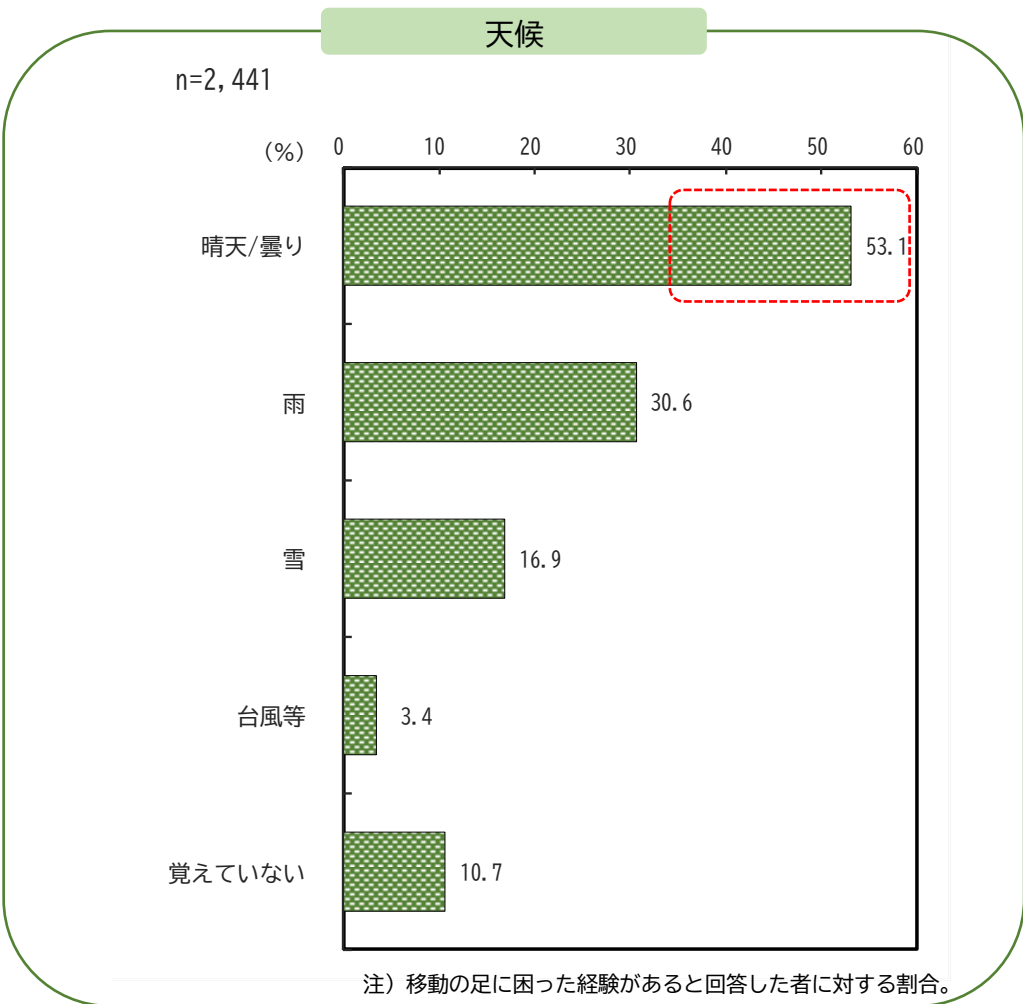
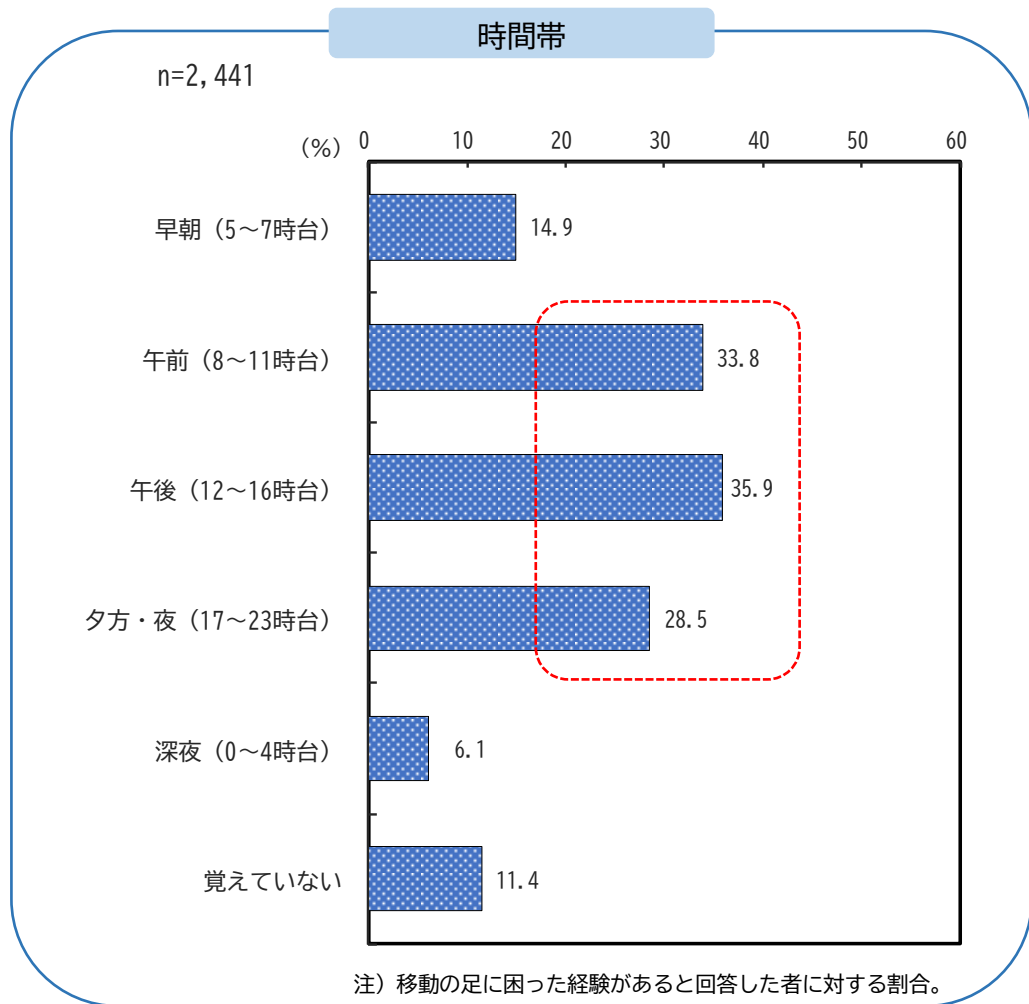


【今回（前回/前々回）】（全体：8,000（8,000/8,000）、大都市圏：3,049（3,056/3,270）、大都市圏以外：4,951（4,944/4,730）、64歳以下：5,368（5,590/5,696）、65歳以上：2,632（2,410/2,304）、自家用車/レンタカー：3,939（4,265/3,859）、自動車/レンタカー以外：4,061（3,735/4,141））

注) 移動に困った場面とは、タクシーがつかまらなかった、バス・鉄道の便が少なく移動しづかった、15分以上の待ち時間が発生した、遠回りのルートにせざるを得なかった、移動をあきらめた、等のこと。

- 前回同様、旅行時に移動に困った時間帯については、午前から夕方・夜までの割合が高い（左図）。
- 天候については、晴天／曇り時の割合が5割強と最も高く、「雨」、「雪」を大きく上回る（右図）。

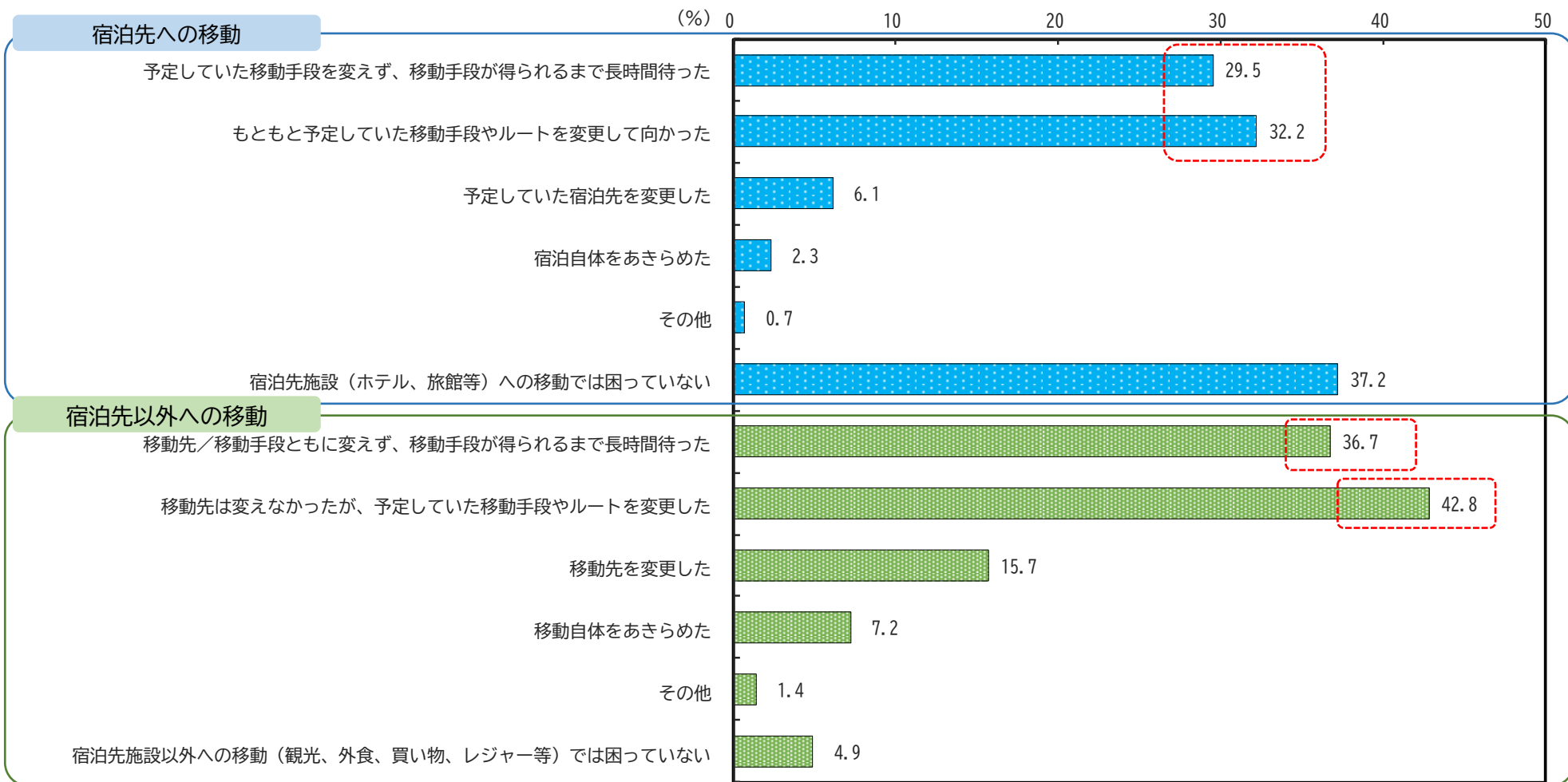
図 旅行先で移動に困った際の、時間帯/天候（複数回答）



- ▶ 前回同様、宿泊先への移動の場合には、「移動手段が得られるまで長時間待った」、「移動手段やルートを変更して向かった」とする旅行者はそれぞれ全体の3割程度（上図）。
- ▶ 宿泊先以外への移動の場合には、「移動手段やルート」の変更は4割強。次いで、「移動手段が得られるまで長時間待った」とする者の割合が高い（下図）。

図 旅行先で移動に困った際の、移動先・移動手段などについての対応（複数回答）

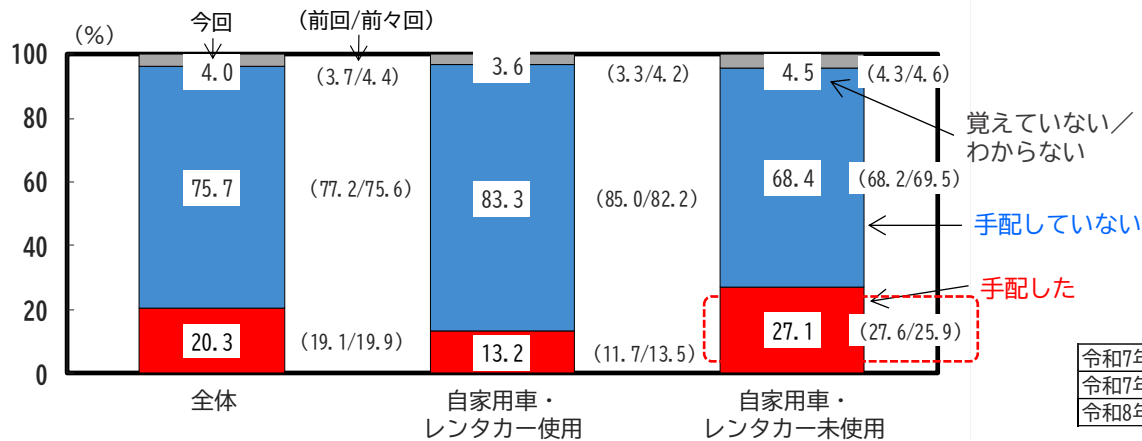
n=2,441



注）移動の足に困った経験があると回答した者に対する割合。

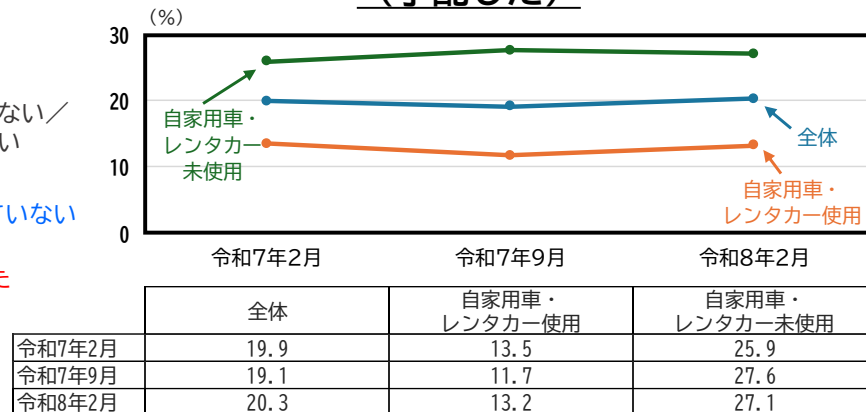
- 前回同様、旅行先におけるタクシー利用者の割合は、自家用車・レンタカーを用いていない方が、相対的に高い（1図）。時系列で見ると、どちらも大きな変化はみられない（2図）。
- 地域別にみると、北海道が最も割合が高く、そのほか東北、北陸、九州、沖縄、東京都、京都府、大阪府でのタクシー利用率が、相対的に高い（3図）。

1図 旅行先におけるタクシー手配の有無

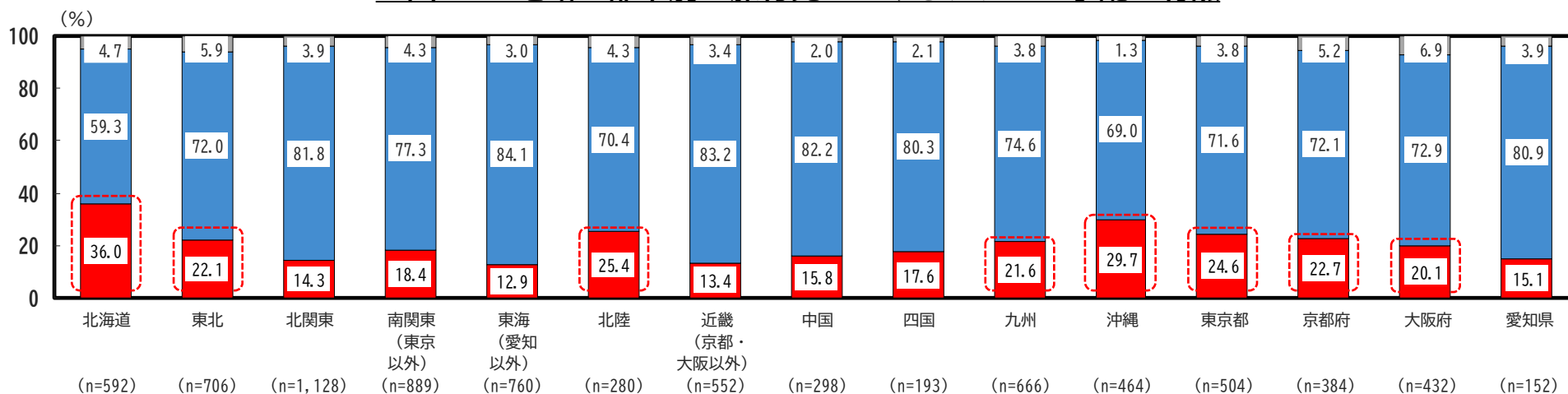


【今回 (前回/前々回)】 (全体：8,000 (8,000/8,000)、自家用車・レンタカー使用：3,939 (4,265/3,859)、自家用車・レンタカー未使用：4,061 (3,735/4,141))

2図 旅行先におけるタクシー手配の有無 (手配した)

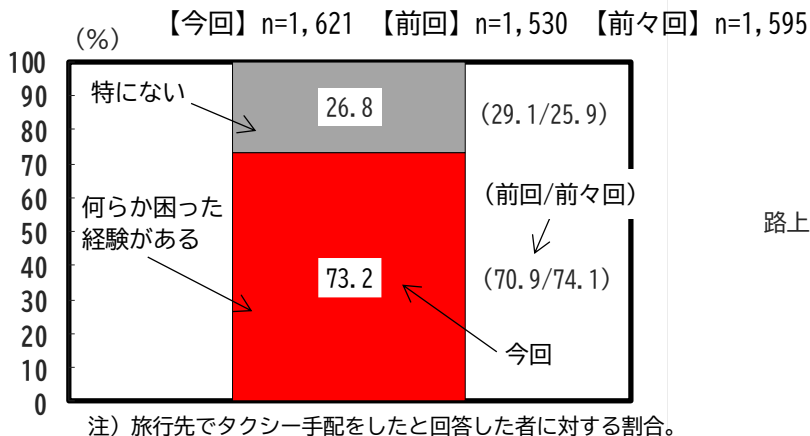


3図 15地域・都市別の旅行先におけるタクシー手配の有無

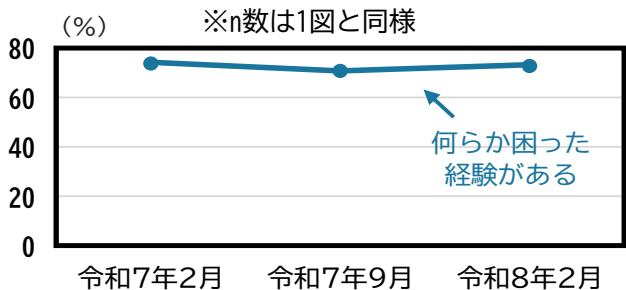


- 前回同様、旅行先においてタクシーを利用する者の7割は、利用しようとした際に困った経験があると回答（1図）。時系列で見ると、大きな変化はみられない（2図）。
- タクシー利用時の困った経験の内容をみると、「路上（流し）」の割合が5割強と最も高く、次いでタクシー乗り場関連の困難経験が高い（3図）。

1図 旅行先でタクシー手配時に困った経験の有無



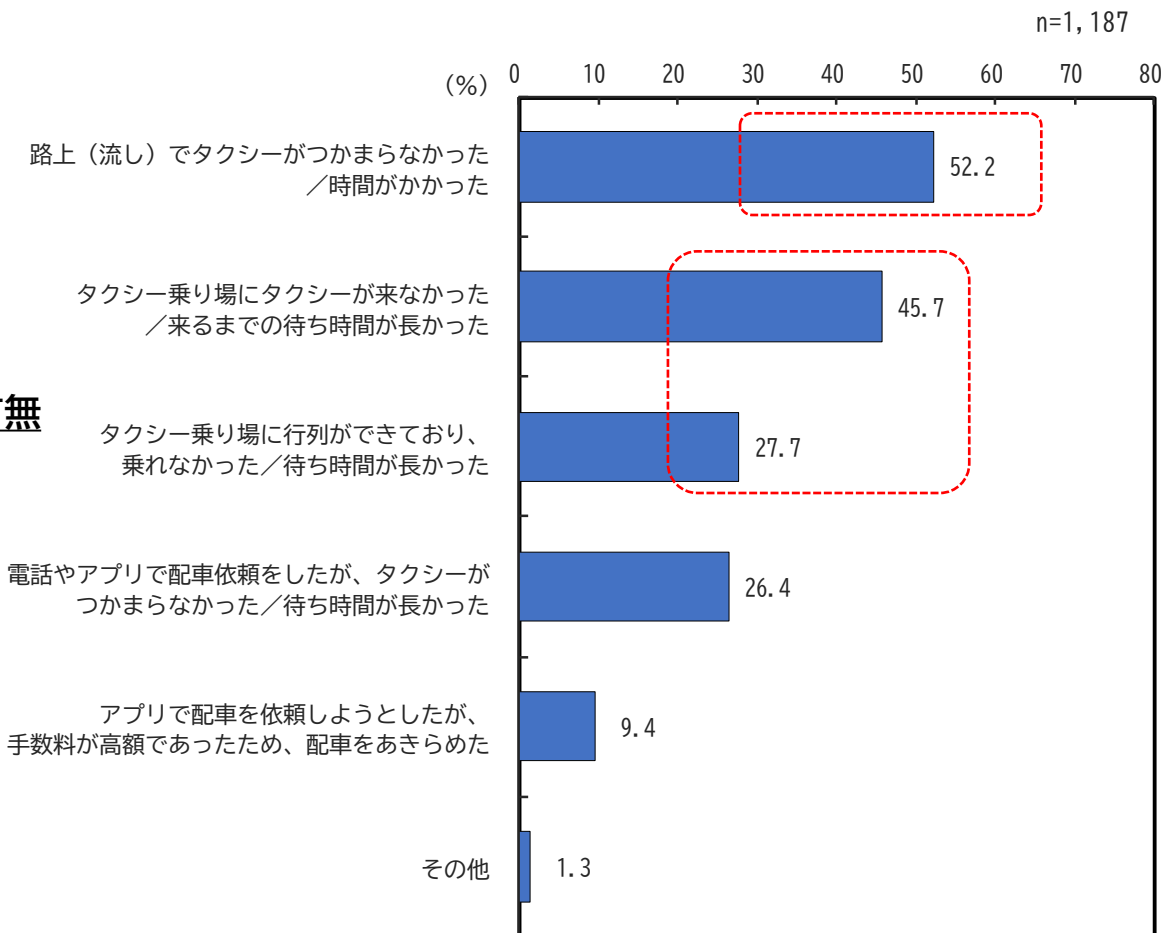
2図 旅行先でタクシー手配時に困った経験の有無 (何らかの困った経験がある)



時期	何らかの困った経験がある (%)
令和7年2月	74.1
令和7年9月	70.9
令和8年2月	73.2

注) 旅行先でタクシー手配をしたと回答した者に対する割合。

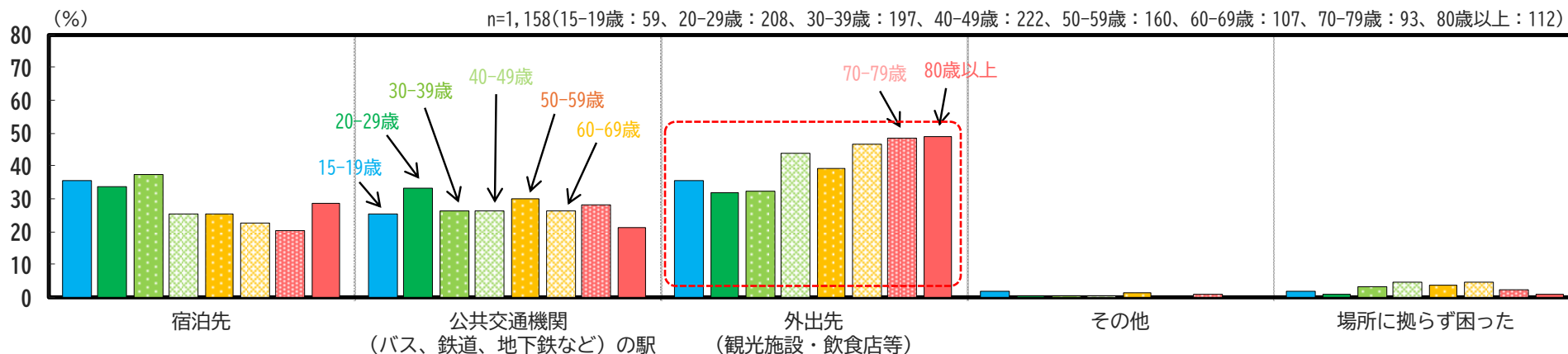
3図 タクシー手配時に困った経験の内容 (複数回答)



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合。

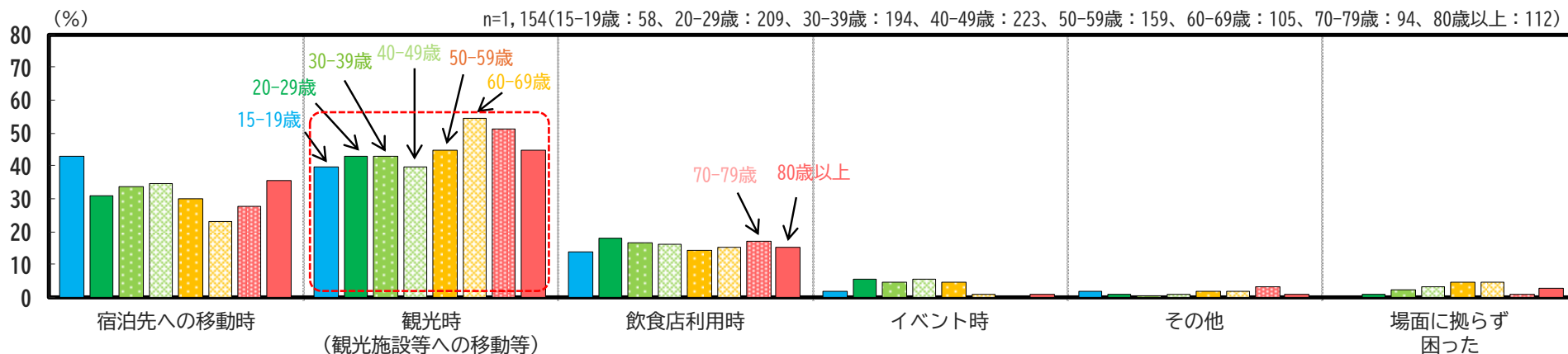
- タクシー手配で困った場所については、「外出先」の割合が相対的に高く、40代以上でより高まる傾向（1図）。
- 前回同様、場面については、「観光時」が相対的に高く、かつ、60代以上で割合が高まる傾向（2図）。

1図 タクシー手配で困った際の場所



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合 (覚えていないと回答した者を除く)。

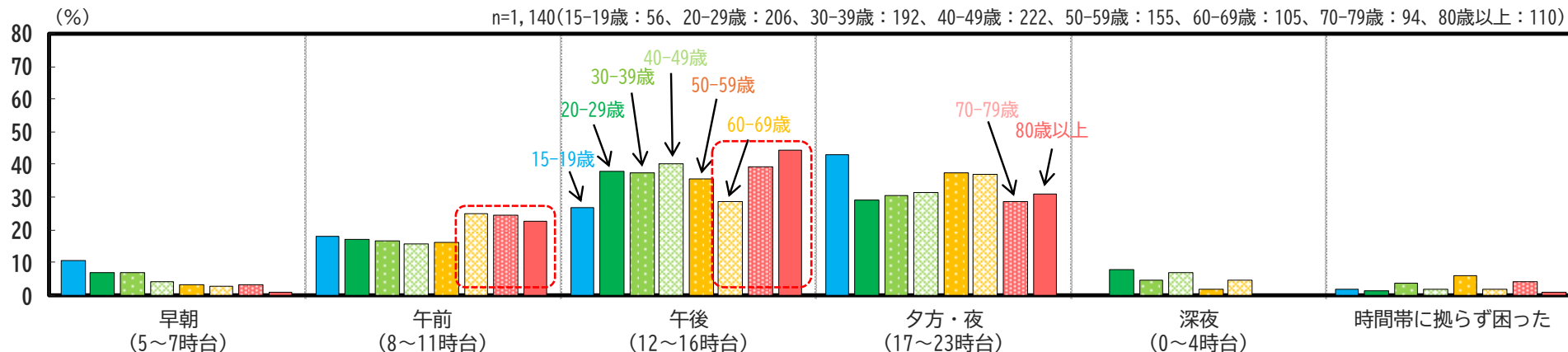
2図 タクシー手配で困った際の場面



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合 (覚えていないと回答した者を除く)。

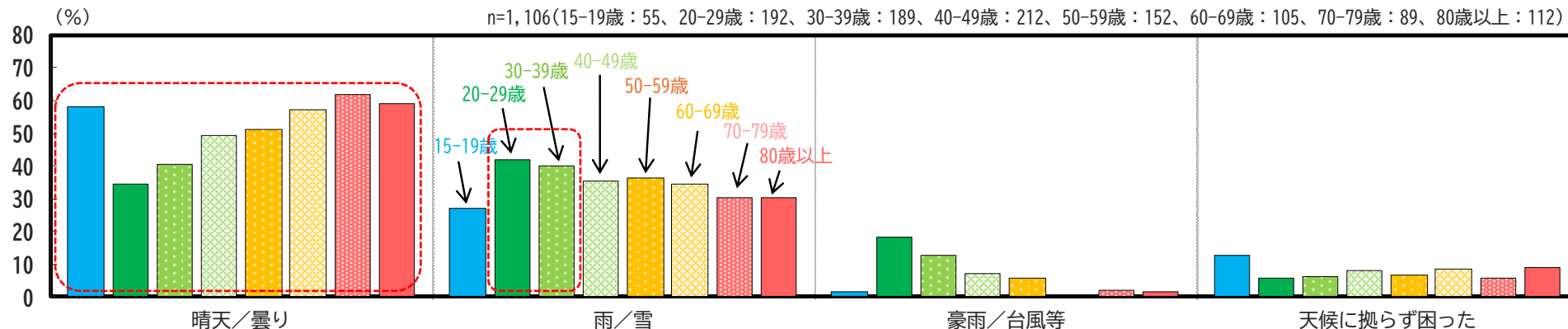
- 移動の足に困った際の時間帯は、「午前」「午後」は60代以上の割合が相対的に高い(1図)。
- 前回同様、天候では、「晴天/曇り」が相対的に高いが、20~30代では「雨/雪」の割合も高い(2図)。

1図 タクシー手配で困った際の時間帯



注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合 (覚えていないと回答した者を除く)。

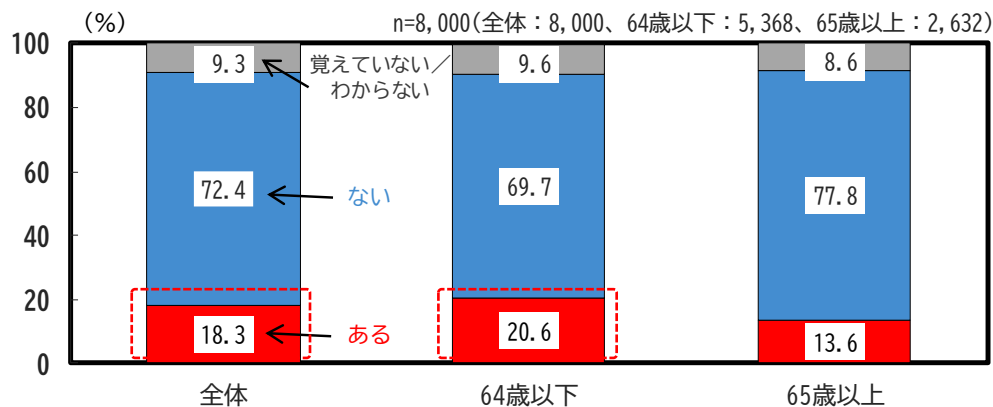
2図 タクシー手配で困った際の天候



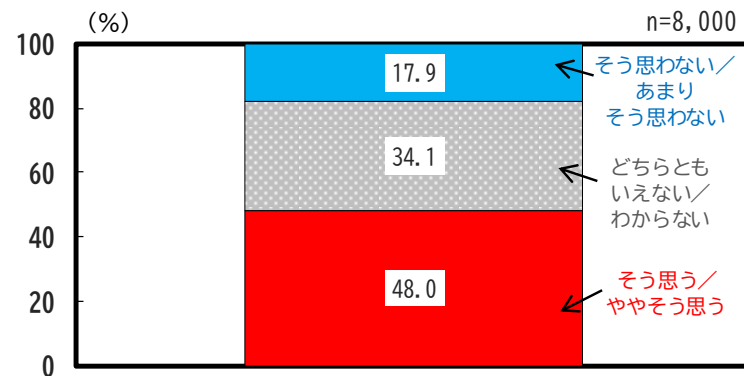
注) タクシー利用に困った経験があると回答した者に対する割合 (覚えていないと回答した者を除く)。

- 旅行者の2割程度が、旅行先を選ぶ際、移動の不足が見込まれることを理由に候補地から外した地域があると回答。65歳以上と比較して、64歳以下の世代で高い(1図)。
- 旅行先において、スマホ等で簡単に手配できる移動サービスが今後新たに提供された場合、移動のしやすさが改善されると思う者の割合は5割弱であり、「そう思わない/あまりそう思わない」の2割弱を大きく上回る(2図)。
- 前回同様、年齢別にみると、10~30代において、相対的に期待感が大きい(3図)。

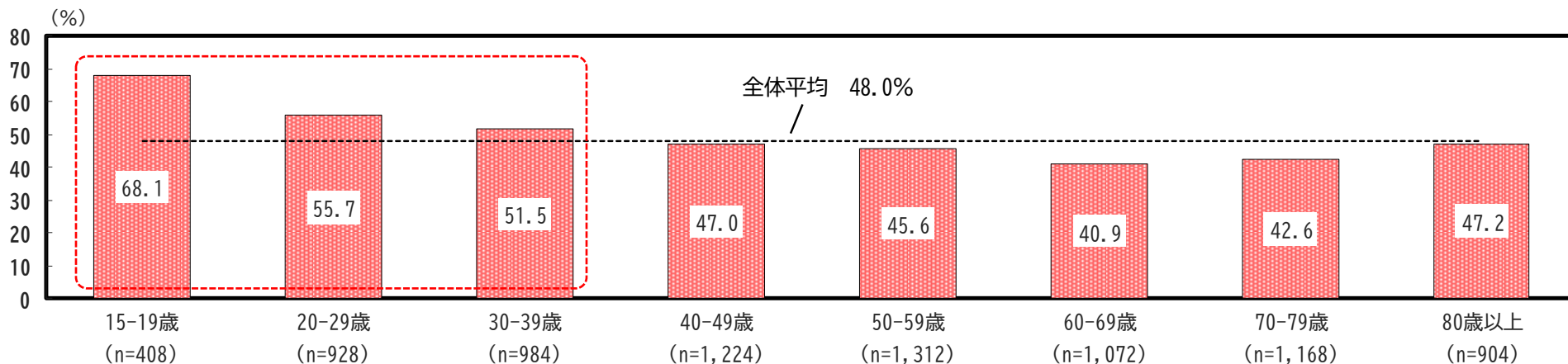
1図 過去1年以内に、旅行先を選ぶ際、当該地域での不足が見込まれることを理由に旅行先の候補から外した地域があるか



2図 スマホ等で簡単に手配できる移動サービスが今後新たに提供された場合、旅行先での移動のしやすさが改善されると思うか



3図 年齢別にみた、新たな移動サービスの提供で、旅行時の移動しやすさが改善すると思う者の割合



※下記コメントは、回答いただいた自由回答を要約したものを記載。事実関係は未確認。



東北
70～79歳

タクシー配車アプリを使ってタクシーを利用したが、地元のようにイメージが分からず、20～30分待つことが頻繁にあった。



中部
70～79歳

バスがなかなか来ないのでタクシーに乗ろうと思ったがタクシーもなかなか来ず、来たら乗車済みなので大変だった。



九州
30～39歳

電車の本数が少なくて2時間ほど待った。空港から主要駅までの移動手段がバスしかなく、混雑していて2本ほど待った。



北海道
50～59歳

ホテルから電車までの道のりが長く、タクシーもつかまらなかった。



南関東（東京以外）
40～49歳

電車が人身事故で運行中止となったため、他の路線と高速バスに変更して目的地に向かった。



関西
20～29歳

駅から目的地のタクシーは捕まるが、帰りのタクシーが捕まらなかった。



沖縄
15～19歳

タクシーがなかなか来なくて長時間待たされた。



複数の方の回答

- ・バス、鉄道の本数が少ない（減便、曜日による運休がある）
- ・待ち時間が長すぎる
- ・バスや鉄道の遅延
- ・バスや鉄道の接続が悪い
- ・バスや鉄道の混雑
- ・道路渋滞
- ・公共交通機関が少ない
- ・天候不良による遅延や運休
- ・目的地までのルートや案内表示が分かりにくい など